



平和を祈り鐘を鳴らす子どもたちと元隊員

平和な世界になりますように

■「平和の鐘」を鳴らす集い

8月15日の「終戦の日」、牧之原コミュニティセンターで平和の鐘を鳴らす集いが開かれました。毎年、旧日本海軍の練習航空隊「大井航空隊」の基地があった同センターに元隊員が集まり、戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝えています。元隊員の吉田秀雄さん(島田市)は、「当たり前のできることが平和です。両親を大切に、思いやりを持って生きてほしい」と時折涙を浮かべながら思いを訴えた後、子どもたちと一緒に平和を願い鐘を鳴らしました。

平和への願いを灯りに込めて

■さがら灯ろう流し

さがら灯ろう流しが8月15日、萩間川のみなと橋付近で行われました。灯ろう流しは、地域の有志でつくる「さがら灯ろう流しの会」が、平成23年に23年ぶりに復活させて以来、開かれています。「家内安全」や「世界平和」などの願いが書かれた、約380個の灯ろうが川の兩岸から流されると、幻想的なほのかな光が川面に浮かびました。灯ろうの売り上げの一部は、義援金として、東日本大震災で被災した福島県南相馬市へ送られます。



願いが込められた灯ろうが川面を静かに流れる

宝くじ助成で祭典の備品を整備

■自治総合センターコミュニティ助成事業

福岡区では8月、宝くじの社会貢献拡大事業として、一般財団法人自治総合センターが行う「コミュニティ助成事業」を活用して、祭典で使用する備品を整備しました。整備した備品は、ガレージジャッキや長胴太鼓、ワイヤレスアンプ、マイク、テントなどです。この事業により、子どもからお年寄りまで楽しむことができる祭典が継続され、伝統文化の保存継承を深め、地域に密着したコミュニティ活動の活性化が期待されます。



整備された太鼓やワイヤレスアンプ、テントなどの備品



静波11丁目町内会の訓練で行われた介護講習の様子

巨大地震と津波に備える

■総合防災訓練

総合防災訓練が8月31日と9月1日、市内全域で行われました。「自らの命は自らで守る 自らの地域は皆で守る」という、市民の防災意識や災害に対する知識、災害対応能力を高めるために行われたもので、約6,000人の市民が各地区の訓練などに参加しました。静波11丁目町内会では、ベットや車いすからの移乗介助方法などの介護講習を行いました。この他、各自主防災組織では、資機材や備蓄品の確認、炊き出し訓練、消火訓練などを行いました。



寄贈した絵画を開幕する奥田治郎さん(中央)、奥田紫光さん(中央右)ら

文化の発展に貢献したい

■絵画寄贈式

本市にゆかりのある奥田治郎さんが、長女で日本画家の奥田紫光さんの作品3点を市に寄贈し、8月4日、市役所棟原庁舎で寄贈式が行われました。治郎さんは、子どものころ菅山に疎開し、菅山国民学校、棟原中学校、棟原高校を卒業しました。治郎さんは、「これを縁に、牧之原市の文化の発展に貢献できたらうれしい」と話しました。作者の紫光さんは、全国水墨画美術協会評議員に就任されるなど、全国で活躍しています。絵画は、棟原庁舎2階、相良庁舎3階、さざんか1階に設置され、誰でも自由に見ることができます。

戦争を考え平和の尊さを伝える

■平和学習展

平和学習展が8月8日から15日まで、相良公民館で開かれました。平成22年に制定した「核兵器のない世界を目指す平和都市宣言」を広め、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えることを目的に毎年開催されています。会場では、戦争に関連したパネル展示やボランティア団体による読み聞かせ、記録映像の上映などが行われました。また、9日と10日には、戦時中の食事体験として、市健康づくり食生活推進協議会による「すいとん」の試食会も開かれました。



戦争に関連した絵本の朗読を行うボランティア団体



市長に答申する総合計画審議会のメンバー(会長:坂本光司氏)

住み続けたいまちづくりのために

■第2次総合計画(基本構想・基本計画)答申

市総合計画審議会は8月8日、平成27年度から8年間のまちづくりの指針となる第2次総合計画の策定について、市長に答申しました。答申では、重点的に取り組む施策として、子ども育成、高台開発、産業雇用、健康、公共施設最適化の5項目が示されました。市民や団体の代表者など16人で組織された審議会は、25年度から今年7月までに合計8回の会議を開き、総合計画の策定方法や計画案について継続して審議してきました。



広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎0052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp